|  |
| --- |
| 第５学年　指導者　（　　　）（　　　）（　　　） |
| 教科「おおたの未来づくり」24時間単元名「災害時に力を～自分たちで作った米を防災食にしよう～」 | 場所：５年各教室 |

１　単元の目標

　・実社会で活躍する様々な人などと連携しながら、自分たちが育てた米を使用した防災食を作ったり、防災食を商品化したり、販売したりするための必要な知識及び技能を身に付けるようにする。

　・試行錯誤して、地域の社会や人々の「Well-being」につながる防災食を発信することができるようにする。

　・防災に関わる分野で活躍する人との関わりを大切にするとともに、自分や他者のよさを生かしながら防災食を開発する活動に主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする態度を養う。

２　評価規準

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| Ａものづくり　 | コンセプト | ①　相手意識に立ったコンセプト設定の意味を理解し、防災食、商品化や販売のコンセプト設定に必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付ける。 | ①　収集した情報を整理・分析してまとめ、地域の社会や人々の「Well-being」につながる防災食、商品化や販売のコンセプトを設定する。 | ①　見学や講話、調査等を通して防災食や商品化のコンセプト設定に必要な情報を進んで収集する。②　相手意識に立ち協働的にコンセプト設定に取り組む。 |
| デザイン | ②　ターゲットとする相手に受け入れられるデザインをするために必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付ける。　 | ②　コンセプトに合った機能、効果、外観、キャッチコピー等のデザインを考える。 | ③　関係者の評価等を受け止めて、協働的にデザインの改善や必要な情報収集に取り組む。 |
| クリエイション | ③　デザインしたものを実際に創造し、それらを分かりやすく伝えるために必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付ける。 | ③　関係者等からのフィードバックや試作作り等を通して得た情報を基に、試行錯誤して、提案資料をまとめたり、商品化したりして発信している。 | ④　商品の創出・発信に向けた準備において、自分と他者のよさを生かして役割を分担するなど、協働的に取り組む。⑤　取組を振り返って価値や改善点を見出す。 |
| ICTの活用 | ④　ICTを活用した情報収集・スライド作成・動画編集・調査・統計資料作成に関する知識・技能を身に付ける。　 | ④　効率性や分かりやすさ、持続可能性等の視点をもってICTを効果的に活用する。 | ⑥　モラルや他者意識をもってICTを活用する。⑦　ICTを他者との協働や振り返り、企画や取組の改善のために活用する。 |

３　単元について

1. 単元設定の理由

本校は敷地内には200㎡を超える、「矢口自然農園」があり、その中に、約100㎡の水田を有しているのが特色の一つである。本校の５年生は、この水田での米作りを年間通じて様々な教科の中に位置付け学習してきた。昨年度からは、米作りを教科「おおたの未来づくり」の学習の中心に据え、昨年の５年生は「亀田製菓」と連携しながら、米製品を作る過程を通して大田区の特色を自ら学び「大田区に向けた未来の米製品」として自らの考えを、よりブラッシュアップしていく過程を経験している。

今年度は、更に学習の幅を広げ、理科「台風と防災」の学習から、地域での防災に目を向けさせ

自分たちで育てた米と防災とを結び付けることで、地域の社会や人々の「Well-being」につながるものや取組を発信することができるようにする。自分たちが育てた米に手を加えたり付加価値を付けたりして試行錯誤しながら、提供、販売することは大きな意義があり、教科「おおたの未来づくり」の目標である、よりよい未来をつくるための創造的な資質・能力が養えると考え本単元を設定した。

（２）学習過程

「実社会で活躍する人との出会い等」として、大田区地域力推進部蒲田西特別主張所の方からの講話の中で、防災意識を高め、備えが必要であることに気付く。また、一般社団法人SPACE FOODSPHERE～宇宙空間と防災～、株式会社エムエスディから、宇宙での極限環境と災害時の危機的状況が似通っているという講話を伺うことで、宇宙食、災害食に目を向けられるようになる。災害時の環境下において、どのようなものが必要となるか、欲していくのかをワークショップを通じて考えていく。その過程で、自分たちが作った米にどのような価値があり、また、新たな価値を生み出せるものであることに気付き、相手意識をもった災害食を作り、提供、販売をしていこうという見通しをもたせ、協働的に学習に取り組む態度を養う。また、株式会社尾西食品からは「防災食」についての出前授業をしていただき、「防災食」への理解を深める。

「コンセプト」として、災害時に「地域の人の役に立つ」「地域の人を励ます」「困りごとを解決する」ということを実現するために「自分たちで作った米×△△△＝新しい価値を生み出す」のように、かけ合わせることをコンセプトに位置付ける。提供、販売の対象者を定め、災害食が、地域の人や消費者の手に届くまでのゴールイメージを共有化し、必要な活動や作業を出し合う。限られた時間の中で、児童一人一人が全てのことを行うことは難しいので、分業し（各プロジェクト立ち上げ）、ブラシュアップ、ビルドアップしながらコンセプトを設定していく。企業と連携することで、コンセプト設定に必要な内容的、方法的な知識・技能を身に付け、収集した情報を整理・分析してまとめ、地域の社会や人々の「Well-being」につながる防災食、商品化や販売のコンセプトを設定できるように指導する。

「デザイン」「クリエイション」として、提供、販売までに必要な情報を収集、整理、分析し、各プロジェクトで試行錯誤しながらデザインをスライドにまとめる。また、米を防災食にするために協力いただく、一般社団法人SPACE FOODSPHERE～宇宙空間と防災～、株式会社エムエスディ及びセイシン企業から、専門的な知識、技能に関する助言等による学びの支援をしていただく。この活動を通して、販売までの方法的な知識を身に付け、コンセプト合ったデザインを試行錯誤しながら創造しようとする力を身に付けられるよう指導する。

（３）授業時数を削減する教科等の時数と本単元で補完する内容

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 教科等名 | 時数 | 本単元で補完する内容（削除時数総数14時間） |
| 国語 | ５ | Ａ（１）ア目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。 |
| ４ | C（３）ウ　資料を活用するなど して，自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 |
| 社会 | ５ | （２）ア（イ）　食料生産に関わる人々は，生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして，良質な食料を消費地に届けるなど，食料生産を支えていることを理解すること。 |

４　児童の実態

昨年度、本学年の児童は理科「季節と生き物」の学習でヘチマを育て、総合的な学習の時間「ヘチマタワシを作ろう」の学習でヘチマをソープディッシュ（石鹸置き）にし、近隣の商店街の夕市で販売するという経験をしている。

また、国語科「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」社会科「きょう土の伝統文化と先人のはたらき」「東京都の特色ある地いき～新宿区でさかんな東京そめ小もん」を学習し、新宿区にある「東京染めものがたり博物館」にて染小紋糊付けを体験し、伝統工芸のよさを学習する中で、自分たちでも伝統工芸に近いものを作りたい、矢口オリジナル小紋を作って地域の人を元気にしたい、と児童が目当てや学習計画を立て、矢口小オリジナル小紋を作成した。そして、その小紋を取り入れたグッズをグループ毎に試作し、商店街会長、副会長に提案し、アドバイスをもらいブラッシュアップしていくという経験もしている。最終的には、商店街の２３店舗に、オリジナルステッカーを配布し喜んでいただくこともできた。このように前学年で、自分たちで作ったものを販売する喜びを味わっただけでなく、地域の人たちに喜んでもらいたい、商店街を盛り上げたい、という教科「おおたの未来づくり」のＡ：ものづくり、Ｂ：地域の創生につながる素地を育んできた。

今年度当初、ソープディッシュ販売売上金の使い道を、学年集会で話し合った結果、野菜の苗や種を買うことに決定した。またその際、「子どもが苦手な野菜を育て、おいしく食べてもらうことで、野菜嫌いを減らしたい」という目標を児童が設定し、「本校敷地内にある畑で野菜を育て、野菜を販売したい、その野菜で多くの人たちを喜ばせたい」という課題を設定した。

１学期の教科「おおたの未来づくり」では、「野菜ノベーション　矢口ノベーション」と題して、実社会で活躍する様々な人と連携して、農作物の生産者や消費者の願いに気付き、提供する相手にとって価値あるもの、地域の社会や生活を豊かにするものを創造するためにコンセプトを設定し、有機野菜を作ったり、作った野菜を商品化したり、販売する学習活動を通して、デザインしたものを試行錯誤しながら創出した。学習最後には、大田区鵜の木のカフェを借り、実際に販売することも体験している。また、規格外の野菜を、菓子店に卸し、「矢口小の子どもたちが作った野菜入り菓子」を販売することもできた。こうした学習経験を通じて、探究学習する楽しさを味わうこともできた。

今回は更に、自分で作った米を販売するだけでなく、これからの30年間を見通しながら、地域の防災と自分たちで作った米を結び付け、付加価値を付けたものづくりを創造する学習を設定することで、未来を創造するための見方、考え方を働かせたい。また、経験や既習内容等を関連付けたり、多面的・多角的に考えたりしながら、他者と協働して新たな価値を生み出す力を養っていく。1学期に学んだ、情報収集の仕方、商品開発、販売方法など、専門的な知識・技能に関する助言など受けながら、更なる試行錯誤をさせ、実感を伴った活動となるようにし、来年度取り組む「地域の創生」の学習へとつなげていきたい。

５　主題に迫るための工夫

　（１）問題解決の見通し、学習ストーリー、ゴールイメージを持たせることに関して

　　学習の導入で、この学習で養いたい力を伝え、単元のゴールイメージを児童と設定することで単元の見通しをもたせる。また、学習問題、学習計画を児童と立てること、「学び方」も児童に選ばせることで、主体的に学習に取り組む姿勢を養うことができる。

「これからの学習がどのように進んでいくのか」という学習ストーリー展開を、教員がファシリテートしながら児童と短冊を使用して作成したり、単元の途中、必要なタイミングで児童に知らせたりすることで、問題解決の見通しをもちやすくなると考えた。学習には必ず「学習問題」があり、その学習問題を解決することが学ぶ目的であることを意識化させていく。このことによって、学習の目的達成のためには、何に着目し、どう調べ考え学んでいけばよいかの見通しをもてるようにする。

個々の児童から出される問を、みんなで解決していくべき「学習問題」とし、児童個々が自分事として主体的に把握する。次に、予想を出し合って学習ゴールの見通しをもち、協働して調べたり、考えたりするストーリーを、教員がファシリテーターとして、児童の思考を整理することで、児童自身が「学ぶべきこと」「考えるべきこと」を深くつかむことができ、学習への主体性を引き出せると考えた。

　（２）交流の仕方の工夫に関して

交流活動の意義などを児童に明確に示すとともに、生活経験や学習経験、興味や関心、見方や考え方など、何を交流の対象とすべきかを交流の目的を十分に理解させた上で活動させることで、互いの学びを広げたり深めたりすることができると考え、交流前に具体的な交流内容を提示する。

また、教員が児童の学習状況を判断したり、児童と話し合ったりしながら、様々な学習交流を設定することで、児童の試行錯誤が促され、新たな発想や創造につながると考えた。

1. 出し合う交流活動

「出し合う交流活動」では、各自が様々なタイプの資料から必要な情報を抜き出し、ペアや小グループで情報を出し合いながら、それらが適切であるかなどについて意見交流をさせ、思考や表現を深めるための材料を豊かにさせたり、課題に対する認識を深めさせたりすることを目的としている。

1. 比べ合う交流活動

「比べ合う交流活動」では、ペアやグループになり、互いの見方や考え方を比較したり、参考にしたりしながら、法則や原理を理解し、学習の見通しを立てることを目的としている。

1. 高め合う、みがき合う交流活動

「高め合う、みがき合う交流活動」は、話合いなど、根拠を明確に示しながら意見を述べ合ったり、お互いの意見や創作したものについて助言したり、批評したりする活動を通して，他者の意見を取り入れて自分の考えを修正するなど、互いに高め合い、磨き合いながら課題を解決していくことを目的としている。

〈場の設定の工夫〉

○ワールドカフェ

　　　　　各プロジェクトの進捗状況を、各テーブルを回りながら学習交流する。横のつながりを意識させることで、全体のプロジェクトの統一性をもたせることができる。

　　　　○掲示板交流

各プロジェクトの進捗状況や困りごとなどを常時廊下に掲示する。付箋を活用してアドバイスを送り合ったりすることで意欲も高まり、各プロジェクト活動のヒントとなったり、新たな発想が生まれたりする環境づくりができる。

　　　　〇ICTを活用した交流

個人・グループ内の進捗状況の報告、相談事、質問、振り返り等、授業時間内以外での作業の効率化を図るために、まなびポケットのチャンネル機能、ムーブノート、スクールタクトを活用する。

〈掲示の工夫〉

　交流の意義を日常的に意識できるように、下記を掲示しておく。

　・自分の考えを確かにして深めるために。 （自信）

・他の考えに気付き，思考を広げるために。 （ヒント）

・皆で考えを練り上げるために。 （練り上げ）

・考えの相違点・共通点を聞き合うことで思考を深めるために。 （比較）

・考えを出し合い協働して解決するために。 （協働）

・新たな考えを創り上げるために。 （新たな発想）

1. 企業等との事前の打合せ

　　　ものづくりの学習内容を充実させるために以下の企業と連携をした。交渉を始めたのは7月中旬、詳細な打合せは教員に時間的なゆとりがある夏季休業期間を中心に行った。

1. 大田区地域力推進部蒲田西特別主張所　～地域防災拠点について学ぶ～

（打合せ）　電話４回　ファックス１回　面談１回　授業参画１回

1. 尾西食品株式会社　～防災食って？～

（打合せ）メール５回　電話４回

1. セイシン企業　～防災食（アルファ化米製造）～

（打合せ）　メール２回　電話６回　面談１回　授業参画２回

1. SPACE FOODSPHERE　～宇宙空間と防災～
2. 株式会社エムエスディ～学習課題設定への助言　ものづくりへの助言、商品化のための他企業との連携～

（打合せ）　メール　複数回　電話２回　zoom１回　面談２回　授業参画３回

1. 富士通Japan

VISITS Technologies～ICTソフト支援　VISITS　forms～

（打合せ）　メール　複数回　電話２回　面談１回　授業参画〇回　教師向け

（４）ICT等の活用

　　　・VISITS　formsを活用することで、多面的・多角的に考えたり、他者と協働して新たな価値を生み出したりする。

６　指導計画24時間　（全34時間／他教科10時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習過程 | 時 | 〇主な学習活動　★指導の手だて　▶教科 | ◆評価規準【観点】（方法） |
| 他教科 | １　　　　　　　　　　　　　　２　　　　　　３　　 ４ ５ ６ ７ ８ ９ １０ | ◎「台風と防災」　▶理科〇台風による災害や災害に対する備えについて、調べたり考えたりして、自分にできる防災を考える。★台風だけに関わらず、様々な災害を想定させて考えられるようにする。★内閣府防災情報ページを活用する。★避難所について気付き、校内の備蓄倉庫を見学する計画を立てる。◎「（仮）めざせ！防災リーダー！！ ～命を守るために，自分たちにできること（自助）～」 （第２時～第９時）　▶総合的な学習の時間〇校内の備蓄倉庫を見学し、問いを作る。〇蒲田西出張所の方から区の防災計画について話を伺う。★地域の防災について視点をしぼっていく。〇未来の自分たちのゴールイメージをもち、学級で学習問題をつくる。これからの学習の見通しをもつ。〇各自で学習問題をつくり、学習計画を立てる。（探究学習）★前時までの学習で出た問いやつぶやきも収集しておき、学級で様々な観点での探究学習となるように学級全体をコーディネートしていく。〇各自探究学習★各自の探究学習が活性化するように、適宜、交流活動を入れたり、資料を提供したりする。〇各学級で発表会を開く。次の課題（共助）づくりをする。★自分たちで作った米が、防災食に転用できることに着目させ、防災食づくりに意欲を高められるようにする「自然災害に備えて」（体育「保健」領域） 〇防災の取組を調べ災害時に用意しておいたほうがよいものや応急手当について考える。「グラフや表を用いて書こう」(国語) 〇引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。「流れる水の働き」（理科）〇自然災害や防災について知識を広げる。・流れる水の働きと土地の変化について，観察，実験などを行い，得られた結果を基に考察し，表現する。 | ◆台風による災害や災害に対する備えについて調べる活動に進んで取り組み、友達と互いに 考えを伝え合いながら、自らにできることを考えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】（ワークシート）◆「防災」について地域の人々が求めていることや自治体としての取組、他地域での取組等から自分たちの地域にとって必要なことについて理解する。【知識及び技能】 （まとめ）◆「防災」について収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりしながら分析し、理由や根拠 を明確にして多面的に発信する情報を選択することができる 。【思考力・判断力・表現力等】（発表）◆「防災」について関心をもち、課題の解決に向けて、他者と協力して課題解決に取り組むことができる。◆自己の学びや学び方を振り返ることで、地域に役立つことをしたり、自分の成長に気付いたりして、現在及び将来の自己の成長につなげている。【主体的に学習に取り組む態度】（ワークシート・発言・態度） |
| 　コンセプト　コンセプト12 　１組13デザイン　18 19 20 21 22～24クリエイションコンセプトデザイン18 19 20 21 22～24　　 ８　　　　９～11　　 　12　２組　 13～17　　　　　　　18　19　2021　22～24クリエイションコンセプトデザインクリエイション | １　２　　　　３　４　　５　６　　７　　　　　　　　　　　　　　　　８　　　　９～１１　　　　　 | **◎「災害時に力を～自分たちで作った米を防災食にしよう～」（教科「おおたの未来づくり」）**〇 SPACE FOODSPHERE、株式会社エムエスディによるワークショップ「（仮）宇宙と防災」「学習課題設定への助言」〇尾西食品から防災食についてお話を伺う（出前授業）★自分たちで作った米を防災食にすることを想起できるようにする。〇「もしもの時にこんな防災食があったらいいな」　前時までの話をもとに、自分が作りたい防災食の絵コンテを書き、学年で共有（掲示）する。〇学年会議を開き、学習のゴールイメージをもち、学習問題をつくり、学習計画を立てる。どのようなプロジェクトが必要か意見を出し合う。★どのような防災食にするか、誰に提供するか。そのために必要な工程を考えさせる。★「分業制による密接な交流を通して解決策をビルドアップしていく」というイメージをもたせる。（学年集会）①子どもたちへ提供企画チーム②高齢者施設へ提供企画チーム③〇〇へ販売企画チーム1. **子どもたちへ提供企画チーム**

〇グループ内での課題設定をする。ゴールイメージの共有。　探究学習のストーリーづくり〇プロジェクトチーム毎の探究学習。→各グループで必要な情報を収集しながら、コンセプトに合った機能、効果、外観、キャッチコピー、試作づくりをし、デザインを考える。（自分たちで作った米×△△△＝新しい価値を生み出す）〇各グループでデザインしたものをVISITS formsを活用して発表し、評価し合い、株式会社エムエスディから助言をいただいてデザインを決定する。〇決定したデザインを創出するために、どのような工程、作業が必要か話し合い、各プロジェクトを立ち上げる。〇各プロジェクトチームでの探求学習1417～例：パッケージデザインチーム、提供相手とのやりとり（渉外）チーム、メッセージチーム、おもちゃ作りチームなど→各プロジェクトで試行錯誤して創出してきたものをブラッシュアップできるようにグループ内で交流をしたり、ビルドアップしたりしながらひとつのものをデザインしていく。★交流の仕方の工夫　それぞれの発表に意見を伝えられるようにする。〇学年プロジェクト会議を開く。〇３つのグループの中間報告を行い、改善するとよい点を助言し合う。〇各チームで改善すべき点を検討し、デザインを再考する。〇デザインしてきたものを創出する。※各デザインを企業に依頼し、商品化していただく。〇学習を振り返る。８　　　　９～11 　 12 13　３組 14～171. **高齢者へ提供企画チーム**

〇グループ内での課題設定をする。ゴールイメージの共有。　探究学習のストーリーづくり〇各プロジェクトチームの探究学習を行う。→各グループで必要な情報を収集しながら、コンセプトに合った機能、効果、外観、キャッチコピー、試作づくりをし、デザインを考える。（自分たちで作った米×△△△＝新しい価値を生み出す）〇各グループでデザインしたものに対して（株）セイシン企業から助言をいただき、再考してデザインを決定する。〇決定したデザインを創出するために、どのような工程、作業が必要か話し合い、各プロジェクトを立ち上げる。（学習計画を立てる）〇各プロジェクトチームでの探究学習を行う。例：パッケージデザインチーム　提供相手とのやりとり（渉外）チーム　メッセージチーム　付加価値チームなど→各プロジェクトで試行錯誤して創出してきたものをブラッシュアップできるようにグループ内で交流をしたり、ビルドアップブしたりしながらひとつのものをデザインしていく。★交流の仕方の工夫　それぞれの発表に意見を伝えられるようにする。〇学年プロジェクト会議を開く３つのグループの中間報告を行い、助言し合う。〇各チームで改善すべき点を検討し、デザインを再考する。〇デザインしてきたものを創出する。※各デザインを企業に依頼し、商品化していただく。〇学習を振り返る。1. **〇〇販売企画チーム**

〇グループ内での課題設定をする。ゴールイメージの共有。どのような工程、作業が必要か話し合い、各プロジェクトを立ち上げる。探究学習のストーリーづくり。（学習計画を立てる）〇各プロジェクトチームでの探求学習（前半）例：パッケージデザインチーム、販売（渉外）チーム、メッセージチーム、付加価値チームなど〇各プロジェクトでデザインしたものをSPACE FOODSPHERE、株式会社エムエスディさんから助言していただきながら、デザインをビルドアップする。〇各プロジェクトチームでの探究学習を行う。（後半）★各プロジェクトで試行錯誤して創出してきたものをブラッシュアップできるようにグループ内で交流をしたり、ビルドアップブしたりしながらひとつのものをデザインしていけるようにする。★交流の仕方の工夫　それぞれの発表に意見を伝えられるようにする。〇学年プロジェクト会議を開く。３つのグループの中間報告を行い、助言し合う。〇各チームで改善すべき点を検討し、デザインを再考する。〇デザインしてきたものを創出する。※各デザインを企業に依頼し、商品化していただく。〇学習を振り返る。 | ◆【主】①②（ワークシート・発言）◆【知】①【思】①（ワークシート・発言）◆【知】①【思】①（ワークシート・発言）◆【思】②（作品）◆【主】②【思】②（ワークシート・発言）◆【主】②【思】②（ワークシート・発言）◆【知】②（作品）◆【主】②【思】②④【知】④（作品・ワークシート・発言）◆【主】③【思】②（ワークシート・発言）◆【主】④（発言・ワークシート）◆【知】③【思】③（プレゼン）◆【主】⑤【思】②（作品・ワークシート・発言）◆【思】④【主】⑥⑦（発表・発言・ワークシート）◆【思】③（作品）◆【主】⑤（ワークシート）◆【主】⑤【思】③（ワークシート・発言）◆【主】②【思】②（ワークシート・発言）◆【知】②（作品）◆【主】②【思】②④【知】④（作品・ワークシート・発言）◆【主】③【思】②（ワークシート・発言）◆【思】②(発言・ワークシート)◆【知】③【思】③（成果物）◆【主】⑤【思】（作品　ワークシート発言）◆【思】④【主】⑥⑦（発表・発言・ワークシート）◆【思】③（ワークシート）◆【思】③（作品）◆【主】⑤（ワークシート）◆【主】②④【思】②（ワークシート・発言）◆【主】②【思】②④【知】③④（作品　ワークシート　発言）◆【主】③⑥【思】②（ワークシート・発言）◆【知】③【思】③（成果物）◆【主】④⑤（作品　ワークシート発言）◆【思】④【主】⑥⑦（発表・発言・ワークシート）◆【主】⑤【思】③（作品）◆【思】③（作品）◆【主】⑤（ワークシート） |

※「販売」は学習過程に入れず、課外活動とする。

※　評価の観点については、学習過程を往還しながら試行錯誤する実際の活動に合わせる。

７　本時の指導計画

|  |  |
| --- | --- |
| ５年１組（全24時間中の第12時）子どもたちへ提供企画チーム　授業者：（　　　） | 場所：５年１組 |
| 目標：企業の方からの助言を聞き、コンセプトに合った機能、効果、外観、キャッチコピー等のデザインを考え、決定することができる。 |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | ◆評価規準【観点】（方法）★指導の手だて |
| 導入 | 〇本時の学習計画を立てる。（学習ストーリーづくり）(仮)各グループでデザインしたものを発表し、アドバイスをもらいながら、デザインを決定しよう。 | ★計画や課題を基に児童がめあてを設定できるようにし、自立的な学びを促す。 |
| 展開 | 〇各グループでデザインしたものをVISITS formsを活用して発表し、他チームのデザインを評価する。・タイヤを付けたところが、遊べていいね。〇エムエスディの方からも助言をいただく。〇評価をもとにデザインを決定し、発表する。 | ◆【主】③（発言）◆【思】②（発言）★デザインしたものについて「いつ、どこで、だれが、何を、どのように」など、提供、販売する相手意識をもった発表になるよう促す。 |
| 振り返り | 〇振り返りを行う。〇グループで次時の見通しをもつ。 | ◆【主】③（ワークシート） |

|  |  |
| --- | --- |
| ５年２組（全24時間中の第12時）〇〇への販売企画チーム　授業者：（　　　） | 場所：５年２組 |
| 目標：企業の方からの助言を聞き、コンセプトに合った機能、効果、外観、キャッチコピー等のデザインを考えることができる。 |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | ◆評価規準【観点】（方法）★指導の手だて |
| 導入 | 〇本時の学習計画を立てる。（学習ストーリーづくり）（仮）各プロジェクトでデザインしたものを発表し、SPACE FOODSPHERE、株式会社エムエスディさんから助言していただきながらビルドアップしよう。 |  |
| 展開 | 〇各プロジェクトでデザインしたものを発表する。・地域の人が買えるお店を選んだところがいいね。・矢口小産をもっとアピールした方がいいね。→SPACE FOODSPHERE、株式会社エムエスディに助言もいただく。〇再考したことを発表する。 | ★デザインしたものについて「いつ、どこで、だれが、何を、どのように」など、提供、販売する相手意識をもった発表になるよう促す。◆【主】⑥（ワークシート・発言）◆【主】③（発言）◆【思】②（ワークシート・発言） |
| 振り返り | 〇振り返りを行う。〇グループで次時の見通しをもつ。 | ◆【主】③（ワークシート） |

|  |  |
| --- | --- |
| ５年３組（全24時間中の第13時）高齢者施設への提供企画チーム　授業者：（　　　） | 場所：５年３組 |
| 目標：決定したデザインを創出するために、どのような工程、作業が必要か話し合い、学習計画を立て、各プロジェクトを立ち上げる。 |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | ◆評価規準【観点】（方法）★指導の手だて |
| 導入 | 〇本時の学習計画を立てる。（学習ストーリーづくり）（仮）デザインをしたものを形にするための計画を立てよう。 |  |
| 展開 | 〇創出するまでに必要な作業、工程を出し合う。・提供する施設を探したほうがいい・メッセージをつけよう〇作業、工程を並べ、計画を立てる。〇役割分担（プロジェクト）をする。 | ◆【思】②（発言）★ゴールイメージを共有し、短冊に作業、工程を出来るだけ、書き出し、並べなおしをすることで、計画を立てやすくする。 |
| 振り返り | 〇振り返りを行う。〇グループで次時の見通しをもつ。 | ◆【思】②（ワークシート） |

８　社会で活躍する人との連携

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 企業名 | 依頼内容 | 資質・能力の育成に期待できる効果 |
| 大田区地域力推進部蒲田西特別主張所 | ・問題提起の講話・課題設定への助言 | ・防災意識を高める。・地域防災拠点について学ぶ。・防災食の備えについて考える。 |
| 尾西食品株式会社 | ・防災食理解への出前授業 | ・防災食への知識・理解の習得 |
| （株）セイシン企業 | ・米の加工（アルファ化米製造） | ・収穫した米の加工協力をいただく中で、セイシン企業の技術力を知り、多面的、多角的にものづくりを考える。 |
| SPACE FOODSPHERE | ・問題提起への講話・課題設定への助言 | ・宇宙と災害という視点から、共通の課題を見出し、学習課題を作る。 |
| 株式会社エムエスディ | ・授業参画 | ・相手意識を養う　　　　　　　・必要な情報収集。・コンセプト設定、デザインの改善。・商品化に向けたブラッシュアップ力。 |
| 富士通Japan | ・ICTソフト支援 | ・ICT活用能力。 |
| VISITS Technologies | ・ICTソフト支援 | ・相互評価力。 |